

庄原市行政評価シート

平成 29 年度評価

事務事業名		庄原市敬老祝金支給事業			
実施期間	平成 26 年度 ~ 平成 年度 (終期の設定のない場合は、終期を空白)	所管課	生活福祉部高齢者福祉課		

予算科目	会計	01 一般会計	款	3 民生費	項	1 社会福祉費
	目	02 老人福祉費	事業	1607 敬老会事業		

対象者	高齢者	対象者数など	H28年度(77名)
根拠法令・計画等	庄原市敬老祝金支給要綱		
HPアドレス	http://www.city.shobara.hiroshima.jp/main/health/koureisha/cat04/post_554.html		

実施目的	高齢者(100歳以上の方)に対して、毎年度その長寿を祝福し、敬老の意を表するとともに、広く市民が高齢者福祉に対する関心と理解を深める。
事務事業の概要	<p>・祝金の額</p> <p>①全対象者一律10,000円</p> <p>②対象者の内当該年度に100歳に達する方については、別に10,000円</p> <p>※平成25年度までは、②の支給なし</p> <p>※本事業を実施する際、当該年度の100歳到達者に対して、内閣総理大臣からのお祝い状及び記念品もあわせて市長から伝達している</p>

年度別実績概要	
平成 26 年度	対象者数 65人 内100歳到達者 19人
平成 27 年度	対象者数 64人 内100歳到達者 25人
平成 28 年度	対象者数 77人 内100歳到達者 28人

実績指標

(単位:千円)

事業費 (インプット)	項目	内容	H 26	H 27	H 28	合計	
	事業費	敬老祝金		840	890	1,050	2,780
						0	
						0	
事業費計			840	890	1,050	2,780	
国県補助金						0	
財源	地方債					0	
	その他					0	
	一般財源		840	890	1,050	2,780	

実績 (アウトプット)	指標名称		単位	基準値	H 26	H 27	H 28	合計
	1	対象者数	人		65	64	77	206
2							0	
3							0	
成果 (アウトカム)	1	祝金	千円		840	890	1,050	2,780
	2							0
	3							0
備考								

事務事業名	庄原市敬老祝金支給事業	所管課	生活福祉部高齢者福祉課
-------	-------------	-----	-------------

評価項目		所管課評価	市民意見	評価委員会	評価分布			
分布は、A+1,B+0,C-1で総回答数で割り、小数点以下四捨五入。ただし、A-C又はC-AがBより多い場合はA,Cに補正する					市民意見		評価委員会	
優先度		A	B	A	分布	平均	分布	平均
A	同じ分野の他の事業と比較し、優先度が高い事業である。				1		5	
B	同じ分野の他の事業と比較し、優先度は中くらいの事業である。				7		2	
C	同じ分野の他の事業と比較し、優先度が低い事業である。				0	0	0	1
認知度		B	A	A	分布	平均	分布	平均
A	対象者以外にも、おおむねの内容は知られている事業である。				7		4	
B	対象者には、おおむねの内容は知られている事業である。				0		3	
C	一部の者を除き、事業があることすら知られていない。				1	1	0	1
有効性		B	B	B	分布	平均	分布	平均
A	費用に対して、効果・成果が高い事業である。				3		1	
B	費用に対して、効果・成果が中くらいの事業である。				5		6	
C	費用に対して、効果・成果が低い事業である。				0	0	0	0
受益者満足度		A	A	A	分布	平均	分布	平均
A	受益者(対象者)は、満足している事業内容である。				1		7	
B	どちらともいえない。				0		0	
C	受益者(対象者)が、満足できない事業内容である。(改善要望がある ほか。)				0	1	0	1
市民(納税者)納得度		A	A	A	分布	平均	分布	平均
A	目的・費用・自己負担・内容等から、対象者以外も納得できる事業である。				4		7	
B	どちらともいえない。				3		0	
C	目的・費用・自己負担・内容等から、対象者以外は納得できない事業である。				0	1	0	1
代替性		A	A	A	分布	平均	分布	平均
A	収益性や技術面から民間での実施が難しく、市が実施すべき事業である。				7		7	
B	民間での実施も可能であるが、公共性・公平性などから市が関与すべき事業である。				1		0	
C	市の関与は委託や助成とし、民間等での実施を検討すべき又は市が関与する必要はない事業である。				0	1	0	1
まちづくり基本条例適合性		B	B	B	分布	平均	分布	平均
A	市民(団体等を含む。)の自立を促進する事業である。				2		0	
B	市民の自立促進までは期待できないが、条例の趣旨(市民が主役のまちづくり)に沿った事業である。				5		7	
C	条例の趣旨に沿った実施形態となるよう、手法・内容を見直すべき(終了を含む。)事業である。				1	0	0	0
所管課評価		現行どおり						
評価視点	対象者が限定される事業であるが、原則、市長が対象者宅等を訪問し、直接祝金を支給することで、当該高齢者が長寿である喜びと生きがい等の生活意欲の向上に寄与する有意義な事業と考えるが、議会教育民生調査会において、支給後の祝金の使用内容が不明なため、金品より物品の方が適当ではないかと意見をいただいています。支給する内容(金品か物品)について意見を求めます。							
所管課が課題と考える内容	本事業はこれまで祝金として金品(現金)を支給してきた。金品支給のメリットは、支給後、対象者の意に沿った使用がなされ、支給目的に合致することと考えるが、デメリットとして支給対象者の意に反した使用をされる可能性がある。また、物品とする場合、記念品やおむつ等の生活用品が考えられる。物品支給のメリットは、高齢者のニーズにあったもの、例えばおむつ使用者におむつを支給するなどがあるが、デメリットとして、対象者に喜ばれる品物は個々で違うことから、一律に支給する物品を決定することは難しい。							

事務事業名	庄原市敬老祝金支給事業	所管課	生活福祉部高齢者福祉課
-------	-------------	-----	-------------

市民意見(プラモニ)		※市民意見は、意見数集計のみを評価とします。(プラモニとしての総括評価はありません。) ※全意見は、ホームページに掲載しています。				
意見数分布	現行どおり	拡充	縮小	終了	その他の見直し	総回答数
	5	2	0	0	1	8
主な意見	<p>【現行どおり】 これからは高齢者が増えて経費も比例して増加するのではないかと思います。現在社会があるのは高齢者の方達のおかげであることを考えれば一人1万円2万円程度の祝金など大した金額ではないではないですか！物品支給でおむつ等とは、相手をバカにしているのではないのでしょうか。もし物品支給ということになれば、わざわざ物品を購入するプロセスに時間と人件費を費やすことが大いなる無駄になると考えます。これくらいの金額であれば、受給者の方に好きに使って頂ければ良いではないのでしょうか。</p> <p>75歳以上の敬老祝賀記念事業については、施設入居などで不在、あるいは連絡のないものまで、自治会役員が配って歩くのは自立を阻害するものとして不要に思う。高齢者問題は、親切過ぎるものが多すぎるのではないかと。優しい社会ではあるが、自立を目指すために過ぎたるは及ばざるの精神で見直しが必要と思う。</p>					
	<p>【拡充】 対象者本人が受け取ることができ、対象者の為に役立てられるのであれば、拡充しても良いのではないかと考えます。</p> <p>【その他の見直し】 事業の見直しを前提ではないが、受益者の意見も聞いて見る必要がある。結果的にさらに効果のある事業実施ができる可能性もある。純粋に長寿の御祝いは、行政を含めた市民全体がその気持ちを醸成すべきであると思う。予算的にも現状では他の事業に影響があるとは思えない。その上で検討するならば、現金では無く、さらにはオムツなどの生活用品でも無く、地域で使える商品券等にする事も検討してはどうか。商品券にすることで、御祝いであるという気持ちを市民の方とも共有できるのではないかと。さらには、商工業者からの支援も頂く事で事業展開できれば循環型の助成制度となる事も可能ではないかと思う。</p>					

行政評価委員会評価	現行どおり	※行政評価委員会の摘録(会議内容)は、ホームページに掲載しています。
------------------	--------------	------------------------------------

総括意見	<p>これまで長い間、社会に貢献された方への敬意や祝意を市民一丸となって表す事業であり、市長が訪問されることも高齢者の喜びにつながっていることから、現行どおり継続とする。</p> <p>支給する内容については、対象となる方の身体の状態も様々で、毎年実施する事業でもあり、物品選定は非常に困難であると考えられる。多様性を考慮し、本人の意思に沿った使用もできる現金支給とすることが望ましい。</p>
------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

※委員会における最終的な評価として総括したものであり、最も分布の多い評価を優先するものではありません。

評価分布	現行どおり 7	拡 充 0	縮 小 0	終 了 0	その他の見直し 0
------	------------	----------	----------	----------	--------------

各委員の意見	<p>【現行どおり】</p> <p>①市長が直接手渡すことにより高齢者の喜びにもつながるし、長生きしてよかったと思われる事業であるので現行通り続けてほしい。物品では好みもあるので現金が適当と思う。</p> <p>②これまで長い間社会に貢献された方に敬意を表して長寿を祝うために敬老祝金を贈呈することは継続することが必要と思われる。また、商品券等の金券では手間と必要経費等も掛かり結果的には現金が適当と思われる。</p> <p>③祝い金を物品等に代替える意見もあるように聞くが、多様性を考慮し現行通り現金支給とするのが望ましい。</p> <p>④受取られる方にとっては、‘市長さんが来てくださり、お祝金を頂いた’ことに意味があるのではないかと思います。課題内容をもて、金品(現金)のメリット・デメリットは確かにあるが、現時点ではお祝金として受取ってもらうのが一番喜ばれると思う。</p> <p>⑤所管課が意見を求めておられるとおり、金品か物品かについては、様々な意見があると思いますが、対象となる方の、体の状態や希望等もそれぞれで、物品の選定は難しいと思います。継続する事業でもあるので、この点は配慮すべき点だと思います。本来であれば、地元のみで使用できる商品券等が望ましいと思いますが、これに該当するものがなければ、現状どおりの方法で実施すべきだと思います。</p> <p>なお、本事業は、市民全体が敬老の祝意を表すものとして、継続すべきものだと思っております。地域や家族の高齢者を敬い、大切にすることが、社会的に弱い立場に置かれている方々を支えるための基盤となるものです。介護保険等の社会保障(世代間の支え合い)の仕組みもこの基盤がなければ継続できないように思います。広く市民の理解を得ることができればと思います。</p> <p>⑥長寿をお祝いする気持ちは大切だし、市としてもこれまでの地域を支えてくださった皆さんに感謝の念をあらわすことは良いことと思う。祝金を物品で…という意見もあるようだが、「好きなように」使える金銭の方が良い。100歳(以上)まで生きて来られた方々なのだから、意志を尊重して、どんなふうにも好きなように使っていただきたい！ご家族の方が受け取られる場合でも、その趣旨がしっかり伝わると良いと思う。</p> <p>⑦お金と物品についてそれぞれ短所長所があり、お金の場合、使い便利はいいが、本人のために使用されているかは不明。物品の場合、例えば毛布等であれば、本人が使用すると思われるが、たくさん持っておられるようなら不用品となる。割り切って性善説により「お金」の方が、渡しやすいのではないのでしょうか。</p>
--------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

今後の事業実施の方向性	現行どおり	
--------------------	--------------	--

詳細	引き続き、原則、市長が対象者宅等を訪問し、直接祝金を支給することで、当該高齢者が長寿である喜びと生きがい等の生活意欲の向上につながるよう努める。
----	--------------------------------------------------------------------------

備考	
----	--